

- 1 題材名 音色・強弱と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、「魔王」のよさを味わおう。
- 2 目標 音楽を形づくっている要素と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、楽曲に対する自分なりの価値を見いだすとともに、楽曲のよさや美しさを味わう。

3 題材について

(1) 題材観

学習指導要領では「音楽を形づくっている要素と曲想とのかかわり」について、小学校から中学校までの9年間で系統立て引き継がれ指導するように明示された。音楽を形づくっている要素同士の関連やそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じることがより重要視されたと考える。本校も各学年ごと段階を踏んで鑑賞の学習が進められるようにしており、第1学年では、資料1のように目標を設定し、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりについて、聴いて感じ取ったことを言葉で説明するなどしながら音楽のよさや美しさを味わえるようにしている。

資料1：第1学年の鑑賞における指導の重点

学期	題材	教材等	鑑賞面からの目標
1学期	情景を想像しながら聴こう	「春」	・ 楽曲の場面ごとの曲想を感じ取って情景を想像し、絵や言葉で表しながら味わって聴いている。
2学期	曲想を感じ取って聴こう (本時)	「魔王」	・ 音楽を形づくっている要素と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、楽曲に対する自分なりの価値を見いだすとともに、楽曲のよさや美しさを味わう。
3学期	アジアの諸民族の音楽 箏に親しもう	・ アジアの諸民族の音楽 「六段の調」 「さくら変奏曲」	・ 地域ごとの楽器の音色や旋律の特徴を感じ取り言葉で説明するなどしながら、多様な音楽のよさを味わう。 ・ 聴いて感じ取った箏の音色の特徴を自分の箏演奏に生かすことで、箏のよさやおもしろさを味わう。

この題材は、シューベルト作曲「魔王」の鑑賞を通して、音楽を形づくっている要素と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、楽曲のよさや美しさを味わうことができるようにするものである。「魔王」は、ロマン派の作曲家シューベルトの18歳（1815年）の作品である。吹きすさぶ風の中疾走する馬の様子を表現した三連符のピアノ伴奏にのせ、淡々と語る語り手、子をさらうために甘くささやきかける魔王、父の腕の中で恐怖におののきながら、父に魔王の存在を悲痛に訴える子、必死に子をなだめる父の四者の声を独唱者が劇的に歌い上げる。登場人物のせりふに当たる旋律の高低や伴奏の変化でそれぞれの心理などが書き分けられており、生徒にとっても歌詞の情景と曲想のかかわりを感じ取りやすい楽曲である。

生徒は音楽に溢れた中で生活している。ことさら音楽を求めなくても、様々なメディアから膨大な量の音楽に触れる環境で生活している。それらの音楽の中に優美な旋律の歌や心揺さぶる楽器の演奏が何曲あったとしても、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取ることができなければ、ただ音空間の中にいるだけになってしまう。音楽のよさや美しさを味わい、音楽によって自身の生活を明るく豊かにするためにも、この能力を育てていかなければならないと考える。彼らが生涯にわたって音楽を愛好し、音楽文化を継承していく聴き手になることを願ってこの題材を設定した。

(2) 生徒観

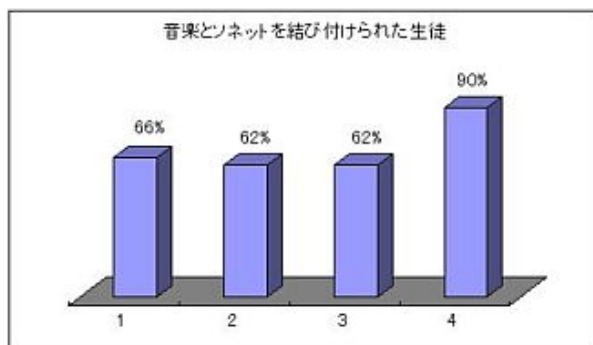
本学級の生徒は1学期、「情景を想像しながら聴こう」という題材で、「春」の第1楽章を教材に授業を行った。はじめに、ソネット（資料2）の付いたA～Dの場面を何も見ず音声だけを聴き、想像した情景や感じ取ったことを直感的に絵や文で表し友達どうし伝え合った。男子生徒は想像するものにテレビCMの影響が色濃く表れた。次の段階で、作曲者が表したかった情景としてソネットを読み、音楽と重ね合わせながらソネットと音楽の関連を味わわせた。自分の想像したものがソネットと近かったことを喜ぶ生徒もおり、教師もそれを賞賛したりしながら共に授業を楽しんだ。

資料2：「春」（A・ヴィヴァルディ作曲）第1楽章のソネット

- A 春がやって来た。
- B 小鳥は楽しい歌で、春を歓迎する。
- C 泉はそよ風に誘われ、ささやき流れていく。
- D 黒雲と稲妻が空を走り、雷鳴は春が来たことを告げる。
- E あらしがやむと、小鳥はまた歌い始める。

2ヶ月後、ソネットA～Dの場面を音楽と結びつけることで実態調査を行ったところ、資料3のような結果となった。

資料3：生徒の実態調査



1：A「春がやって来た。」の場面

2：B「小鳥は楽しい歌で、春を歓迎する。」の場面

3：C「泉はそよ風に誘われ、ささやき流れていく。」の場面

4：D「黒雲と稲妻が空を走り、雷鳴は春が来たことを告げる。」の場面

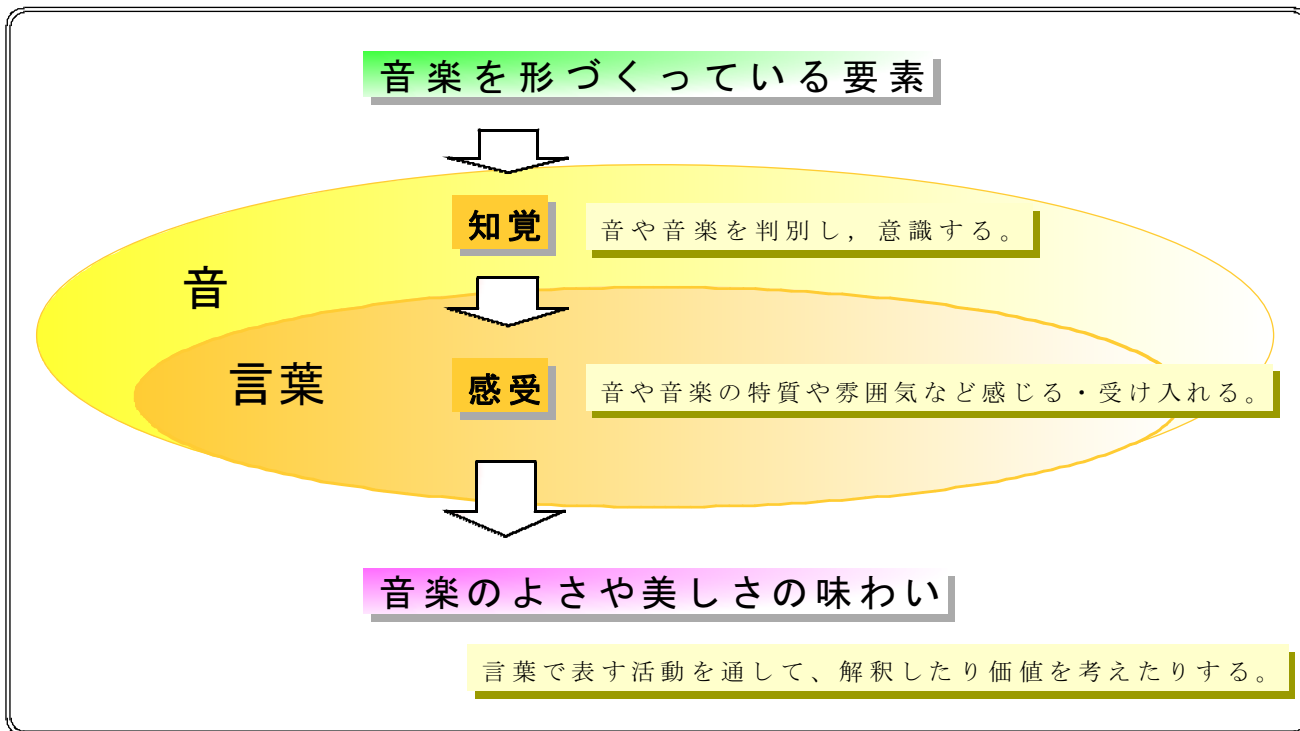
Dのように正答率9割の場面もあったが、その他の場面は正答率6割程度であった。この結び付けができなかった生徒は、音楽を聴き想像をめぐらせ、それについて話すことを楽しんではいったが、ゲーム感覚のようなその場の楽しみに終わってしまい、作曲者の意図を理解したり、音楽表現のよさを味わったりする意識までに至っていないと考える。

本学級の生徒は、合唱にも意欲的に取り組み音楽を聴いて楽しむこともできる。しかし今後も、音楽を聴いて情景を想像したり曲想を感じ取ったりする経験を積み重ねながら、楽曲のよさや美しさを味わう能力を身に付けていく必要がある。

(3) 指導観

資料4に図解するように、音楽を形づくっている要素は音として聴くことで知覚される。そしてその働きによって生まれた特徴や雰囲気を感じ取り、それは言葉によって整理・確認される。音楽を鑑賞する活動には音と言葉が不可欠である。大切にしたいことは、要素と特徴・雰囲気との結び付けである。人物ごとの表現の違いを感じ取るのみにとどまらず、「Bが怒っているように聞こえるのはなぜだろう。」というように、要素をその働きで生まれた特徴・雰囲気と結び付けること、つまり知覚と感受とのつながりを持たせることを大切にしたい。要素は「音楽の素」と呼び、カードで提示したり新たな「音楽の素」（「音色」「強弱」など）を発見させたりしながら本題材の学習に活用したい。「音楽の素」のいくつかをヒントとして提示したなら、言葉にすることに苦手意識を持っている生徒にとって大きな手助けになると思われる。

また、楽曲への興味・関心を高める学習展開を大切にし、感じたことを自由に発言し合う場面を設定したり、独自の「感じ取り」を大切にし自分の言葉に表す不安や苦手意識を取り除いたりすることに努めたい。さらに、課題をわかりやすくしたワークシートを活用し、表層的な味わいとどまらず、理由を説明することのよさに気付かせ、「言葉に表す」ことの手助けとしたい。



(4) 学習習慣の定着を目指して

音楽科の学習のうち表現活動を自己表現と考えれば、鑑賞活動は他者受容である。楽曲はもとより演奏者、作曲者など、対象の音楽にかかわるあらゆるものの受容である。この「受容」を音楽を共有する仲間まで広げ、学習を共に創り上げていく姿勢で意見を自由に交換できるような授業を行いたい。これまでの授業でも、他人の話を聞く姿勢を身に付けるよう努めてきたが、友達の意見を尊重しながらも安心して自分の意見を言える友好的な雰囲気をつくりたい。

4 学習計画及び評価計画（3時間取り扱い）

○は、本時を示す。

時	主な学習活動	評価規準	評価の観点		
			関心	感受	鑑賞
①	・人物ごとの表現の違いを感じ取る。	・音楽を形づくっている要素の働きと効果を知覚し、人物ごとの表現における曲想の変化や雰囲気を感じ取っている。 (ワークシート・観察)	○	◎	
2	・楽曲や歌唱の表現を歌詞と結びつけながら感じ取り、表現の豊かさを味わう。	・歌詞の描く情景や心情と結び付けながら、歌唱や伴奏の表現を感じ取っている。 (ワークシート・観察)	○	◎	
3	・作曲者、作詞者について知り、音楽の特徴や特質と結び付けながら楽曲全体を味わう。	・作曲者や作詞者への理解を深め、音楽の特徴や特質と結び付けて意識し、楽曲を聴き取っている。 (ワークシート)	○		◎

5 本時の学習

(1) 目標

音楽を形づくっている要素の働きと効果を知覚し、人物ごとの表現における曲想の変化や雰囲気を感じ取ることができる。

(2) 展開

学習活動・内容	形態 準備・資料	予想される 生徒の反応	題材のテーマを追求するための 手だて (評) は評価)																								
<p>1 「魔王」を聴いて、学習の見通しをつかむ。 (1) 演奏形態を聴き取る。 ・ 男声の独唱 ・ ピアノ伴奏 (2) 言語について知る。 ・ ドイツ語 (3) 楽曲の形態を知る。 ・ 4人の役を歌っている。</p> <p>2 本時の学習課題をとらえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>人物ごとの表現の違いを感じ取ろう。</p> </div> <p>3 人物ごとの表情を感じ取り情景を想像する。 Q1 登場人物はどのような表情ですか。また、そう感じるのなぜですか。</p> <p>※発言が予想される音楽の素</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">音色</th> <th style="width: 50%;">強弱</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 激しい</td> <td>・ 強い</td> </tr> <tr> <td>・ 落ち着いた</td> <td>・ 弱い</td> </tr> <tr> <td>・ 太い</td> <td>・ だんだん強くなる</td> </tr> <tr> <td>・ か細い</td> <td>・ だんだん弱くなる</td> </tr> <tr> <td>・ 冷たい</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 温かい</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ まろやか</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ きつい</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 包みこむ</td> <th style="text-align: center;">音高</th> </tr> <tr> <td>・ 明るい</td> <td>・ 低い</td> </tr> <tr> <td>・ 暗い</td> <td>・ 高い</td> </tr> </tbody> </table>	音色	強弱	・ 激しい	・ 強い	・ 落ち着いた	・ 弱い	・ 太い	・ だんだん強くなる	・ か細い	・ だんだん弱くなる	・ 冷たい		・ 温かい		・ まろやか		・ きつい		・ 包みこむ	音高	・ 明るい	・ 低い	・ 暗い	・ 高い	<p>・ 一斉</p> <p>・ CD</p> <p>・ ワークシート</p> <p>・ 拡大ワークシート</p>	<p>・ 男の人の声</p> <p>・ 伴奏はピアノ</p> <p>・ 英語, スペイン語, ドイツ語</p> <p>・ 途中でなんか変わる。話してる。</p> <p>・ Aは落ち着いている。声が低いから。</p> <p>・ Bは怒っている。激しいから。</p> <p>・ CはBをなだめている。優しいから。</p>	<p>・ 「魔王」を聴いて、基本的な演奏形態と形式に気付かせ、今後の学習の見通しをつかめるようにする。</p> <p>・ 明るく友好的な雰囲気づくりに務め、生徒の楽曲への興味と自由な発言を引き出し学習意欲を高揚させる。</p> <p>・ 「この4人はどのような表情で、何を言っていると思いますか。」と投げかけ、本時の課題をとらえられるようにする。</p> <p>・ 人物をA~Dと記号化し、誰を表現している場面かその都度わかるようにして聴く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>父 … A 子 … B 魔王 … C 語り手 … D</p> </div> <p>・ 最後にたどりついた考えは赤で、参考になる友達の意見は他の色で書くようにして考えを整理しながら、自分の意見を大切にできるようにする。</p> <p>・ 曲の再生は生徒の関心や着目点、聴取れたかどうかを見ながら、再生回数や再生時間を柔軟にとらえ部分再生を行う。</p> <p>・ 「音楽の素」を活用し、感じ取った要素を言葉に置き換えたり、他の生徒と共有したりするための助けとする。</p> <p>・ 表現の特徴をうまく言い当てていたり、理由をわかりやすく述べていたりする意見は、他の生徒が参考にできるように紹介したり、復唱したりする。</p>
音色	強弱																										
・ 激しい	・ 強い																										
・ 落ち着いた	・ 弱い																										
・ 太い	・ だんだん強くなる																										
・ か細い	・ だんだん弱くなる																										
・ 冷たい																											
・ 温かい																											
・ まろやか																											
・ きつい																											
・ 包みこむ	音高																										
・ 明るい	・ 低い																										
・ 暗い	・ 高い																										

学習活動・内容	準備・資料	予想される生徒の反応	研究テーマに迫るための手だて (評 は評価)
<p>Q2 A～Dは誰だと思えますか。</p> <p>4 歌詞を読みながら鑑賞する。 (1) 歌詞を黙読する。 (2) 歌詞を読みながら聴く。</p> <p>5 本時のまとめを行い、自己評価をする。 ・人物の表情や表現の違いについて感じ取ったことを記入する。</p> <p>6 次時の学習課題をとらえる。</p> <div data-bbox="188 1568 552 1720" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>歌詞と曲や歌を結び付けながら聴き、感じ取ったことを書こう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語の資料 ・日本語訳の歌詞 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Bは泣いているから子どもだ。 ・ Aは言い聞かせてるみたいだからお父さん。 ・ Bは、「my Fatherつて言ってる。 ・ 子ども死んじゃったの？ ・ 怖い！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞をヒントとして考えられるようにドイツ語（英語と関連付けて）の資料を掲示する。 <div data-bbox="1078 409 1345 582" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>マインファーテル mein Vater (英) my Father お父さん</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語に訳された歌詞を読み、歌詞と楽曲への興味を高める。 ・ 今どこを聴いているかがわかるように口頭で示す。見落としやすい生徒には近くで行う。 <div data-bbox="991 1037 1393 1263" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評 人物ごとの表現における曲想の変化や雰囲気を感じ取ることができる。 〈音楽の感受と表現の工夫〉 (ワークシート・観察)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートへの記入が少なかった生徒には、次の授業でも書く時間が持てることを伝え、追加記入を促す。 ・ 次時の学習課題を提示し、今後の学習の見通しをもてるようにする。